

市内96の老人会長らが、市長・市議会に要望書提出など

敬老無料パスを守れの声広がる

市民の声を反映

この声をさらに広げて、予算議会できっぱりやめさせよう

市民の福祉・くらしを守るため全力で頑張りました

老人会、市民団体などから署名運動広がる

値上げの根拠が希薄と委員会審議も継続へ

阿部市長の「敬老パス」有料化計画に市民の怒りの声が大きく立ち上がった。

「お年寄りの足である敬老パスを有料化するなんてとんでもない」と市内九六の老人会長さんが市長と議長に「要望書」を提出。「敬老無料パス」の継続を求める世論と運動が急速に広がっています。

日本共産党はこうした声に呼応し、政党として唯一、請願の紹介議員となるなど、議会内外で「敬老無料パス」を守るよう全力をつくしてまいりました。



川崎市は、昨年十二月、七〇歳以上のお年寄りのバス利用を有料にする「有料フリーパスとワンコイン併用方式」の計画案を発表。健康福祉委員会での審議でも、「説明不足」「金額の根拠が希薄」などの意見が出され、審議は今年に持ち越されています。

市は二月の予算議会で強行のかまえ

川崎市は昨年十二月の委員会審議の経過にふまえ、一ヶ月一〇〇〇円のフリーパス案を予算議会に新たに提案し、なんとしても成立させるかまです。いっそうの世論と運動を広げることが求められています。

敬老パス利用者の声

「足の治療で通院に使っている。パスが無くなったら治療にもいけなくなる(男性)」
「有料になったら本当に困ります。病院に行くのに乗り換えていくと八〇〇円かかる。年金生活者には大変な負担です(一老女より)」
「年金で生活する人はムダづかいを避けて細々と暮らしている、ぜひ無料のままにしてください(老人会長)」

「わくわくプラザ」の充実で

子どもの安全な遊び場に

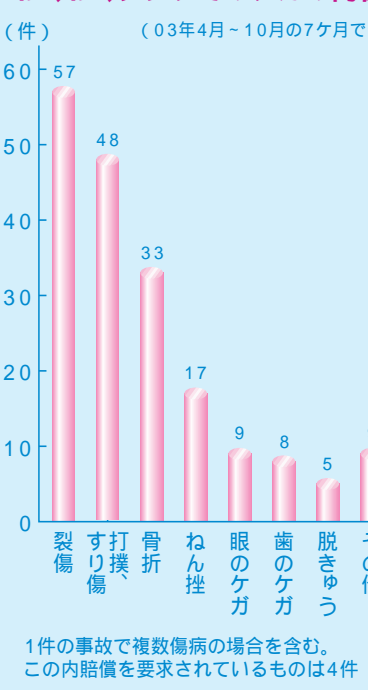
「わくわく」への期待と不安が交錯

発足から半年で事故件数174件
放課後、学童保育に入れなかった子どもと親にとっては待ち望まれていた「わくわくプラザ」。ところが、昨年4月の発足以来、10月末までの7カ月で174件の事故が発生、十月には二階から転落して頭蓋骨を骨折という重大事故も...

全児童の半数以上が利用する大事業なのに足りないスタッフ&スペース

全市で三万六、二二六人が登録。スタッフは受付業務などに手を取られ、とても一人一人に目を配る余裕がなく、健康の異変を訴えるスタッフも。こうした背景が事故多発の原因になっているのです。日本共産党は当初から調査を続け、スタッフの要望を聞き、体制や施設の不備を改善させてきました。当初は手放して評価していた政党を含め、全会派が代表質問で「わくわくプラザ」の体制の不備を指摘せざるを得なくなりました。

わくわくプラザでのケガの内容 (03年4月-10月の7ヶ月で)



1件の事故で複数傷病の場合を含む。この内賠償を要求されているものは4件

子どもにとって「わくわく」も「学童保育」も、どちらも必要です

一方、親の就労により、夕方まで家に帰れず、「わくわく」と区別した「学童保育」を必要とする児童もあり、費用が高くて安心な自主学童保育にあずける親も出ています。日本共産党は、子どもたちが放課後を安心して過ごすためには、家庭の状態に応じて「わくわく」も「学童保育」も両立させ、ともに充実させていく必要があると考えています。

日本共産党が一貫して追及

市財政圧迫する大規模事業の抜本的な見直しで、くらし・福祉を充実させながら、財政健全化を



取扱い荷物は減るばかり、かわさき港コンテナターミナル

阿部市長は市民の福祉・くらしの予算を削る一方で、音楽ホール「ミュージアかわさき」(総事業費約三三〇億円)を住民の反対を押し切って建設。さらに、かわさきファズの赤字穴埋めに三七億円を融資するなど大規模事業への支援を行ってきました。

「かわさき港コンテナターミナル」(KCT)新たな市民負担か? 川崎市は、一九九四年の開設以来累積赤字が六一億円にのぼり、経営破たんKCTに市が続けてきた施設使用料など年間一億二〇〇〇万円の減免を中止することを明らかにしましたが、市直営にのりだすつごきもあり、新たな市費負担が心配されています。日本共産党は、当初から、税金ムダづかい事業とキツパリ手を切るよう主張してきましたが、今後、六一億円の累積赤字の処理方法をめぐり、市民や市財政に転嫁させない運動が求められています。

下水道料金値上げ審議 最後まで市民の立場で

自民、民主、市民、公明ネットがわずかな修正で値上げを可決
十二月市議会では下水道料金の平均8・9%の値上げを多数で可決。委員会審議では値上げに慎重な意見だった自民、民主、市民、公明も結局わずかな修正で値上げを容認。日本共産党は市民負担を考え、値上げそのものに反対。
「いま、市内の業者は大変な状況。物の値段が下がっているときに公共料金だけが上がるのは市民理解を得られない」。日本共産党は最後まで市民や町場の業者さんの立場を貫きました。

大規模事業のムダを見直せばまもれます

市内の消防署の統廃合計画が発表され、宮内と玉川出張所の廃止も明記されていました。地元町内会などから「とんでもない」と反対運動が展開されています。
消防出張所が廃止 地元町内会で反対運動
市内の消防署の統廃合計画が発表され、宮内と玉川出張所の廃止も明記されていました。地元町内会などから「とんでもない」と反対運動が展開されています。
重度心身障害者など入院時食事費助成を廃止
「入院と在宅の負担の公平性をはかる」と重度障害者や小児ぜん息患者など五つの事業の入院時の食事代の助成制度を廃止。阿部市政の冷たさがひとときわめだちます。
小・中学校給食の質の低下を許さない
全区で一校ずつ試行されている中学校給食は、市が273円の補助を削って400円の全額父母負担に。献立も食材も調理も全部民間業者任せの弁当を販売するだけでは、もはや学校給食とはいえないと教育委員会も議会で答弁しています。
さらに、小学校給食でも今年の四月から各区一校で調理業務をモデル的に民間委託すると発表。当事者との相談も無い拙速なやり方に学校関係者からも疑問の声があがっています。
葬儀場値上げ 霊柩車は廃止へ
市営葬儀場の使用料値上げが可決。さらに、低料金で市民が利用できた霊柩車は、使えない人との公平性を理由になんと廃止に。日本共産党は、「亡くなった人」にまで冷たい仕打ちをするのか」と霊柩車の存続を強く求めました。



憲法改悪、消費税の大増税は許しません

日本共産党